

## 今月のトピックス

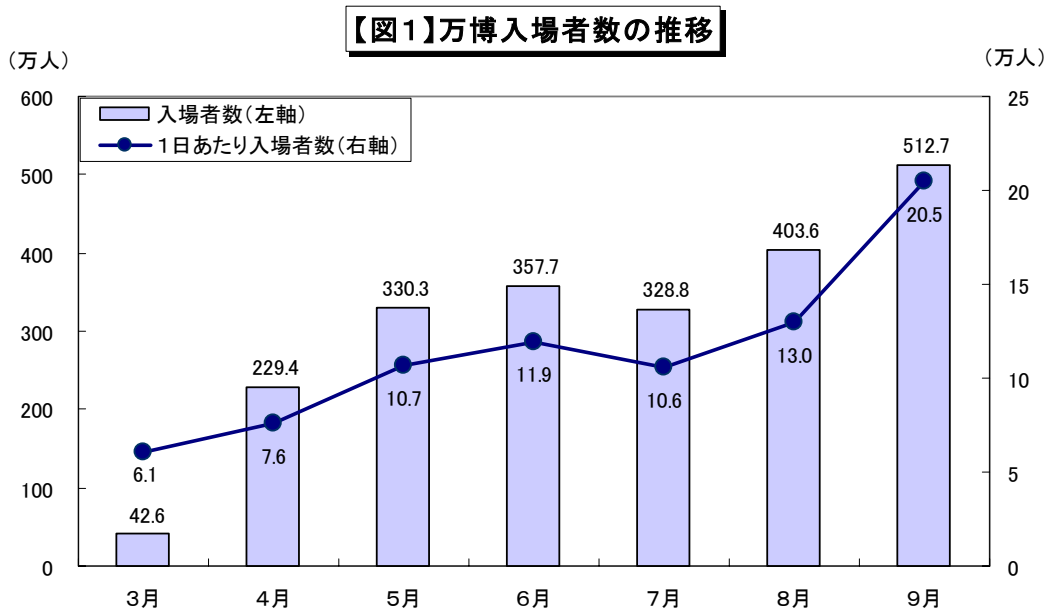
### 愛・地球博をめぐる交通・観光の動向

#### 1. はじめに

平成17年3月25日から185日間に渡って開催された愛・地球博(以下「万博」という。)は、当初の目標である1,500万人を大きく上回る約2,205万人の公式入場者数を記録し、9月25日に閉幕した。本稿では万博をめぐる交通・観光の動向について概観する。

#### 2. 入場者数

万博の最終公式入場者数は、2,204万9,544人となった。月別の入場者数を見ると(図1)、終盤になるに従って入場者数が増加していったことが分かる。

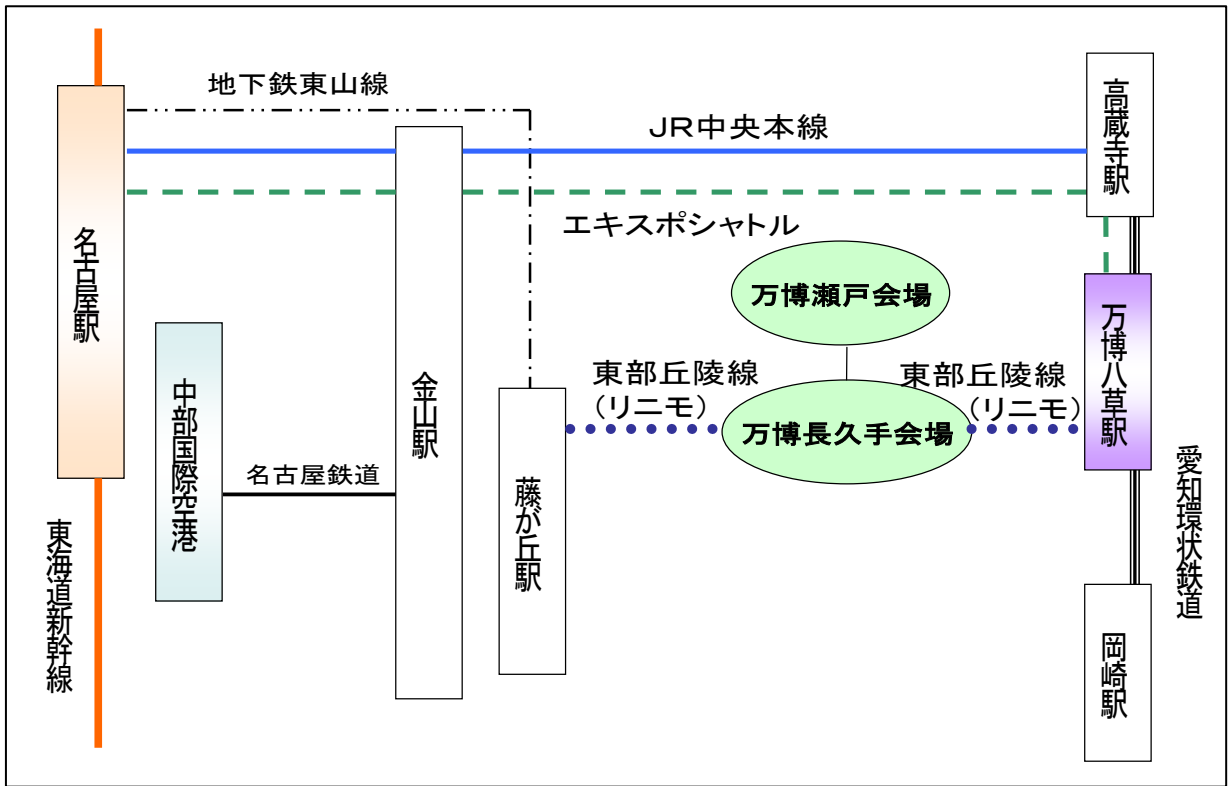


資料) 博覧会協会資料より国土交通省作成

博覧会協会が実施した外国人入場者調査(全5回)によると、万博を訪れた外国人入場者数は104.9万人、そのうち旅行者は86.8万人と推計された。また、外国人入場者(旅行者)全体に占める割合の高い国・地域は、台湾(21.8%)、韓国(15.2%)、中国(12.0%)、アメリカ(11.8%)であった。

### 3. 鉄道輸送

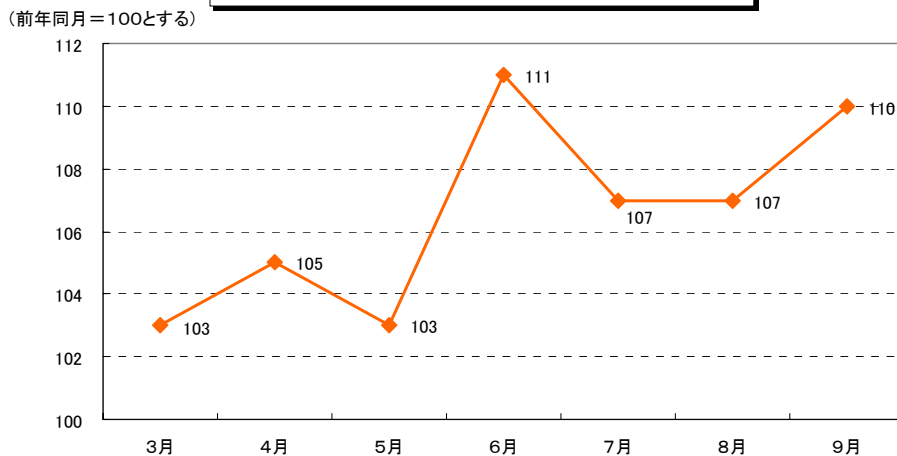
<万博会場周辺の路線図>



#### ① JR

東海道新幹線輸送量を見ると(図2)、15年度は前年度比1.9%増、16年度は同3.4%増であったが、万博開催期間中(3月~9月)については、前年同月比でいずれの月も大きく増加し、全体としては前年同期比7%増(3月25日~9月25日の輸送量で比較)となった。

【図2】東海道新幹線輸送量(前年同月比)の推移

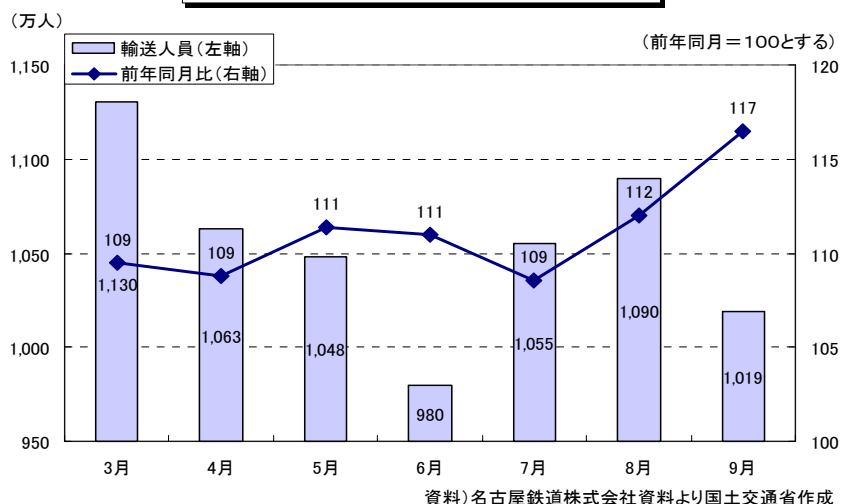


資料) 東海旅客鉄道株式会社(JR東海)資料より国土交通省作成

## ② 民鉄

名古屋鉄道の定期外輸送人員を見ると、15年度は前年度比1.2%増、16年度は同1.4%増であったが、万博開催期間中(3月～9月)については、前年同月比でいずれの月も大きく増加しており(図3)、全体としては前年同期比11.0%増であった。これは、中部国際空港開港と万博開催の相乗効果があったものと考えられる。

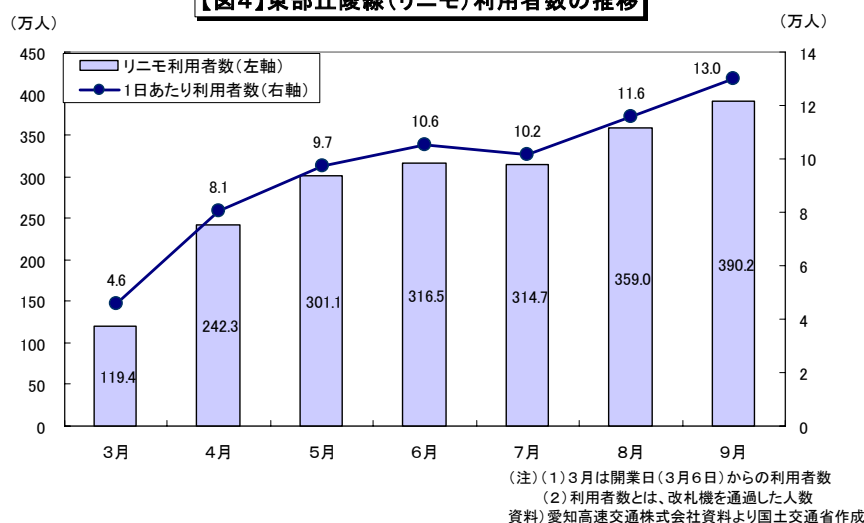
【図3】名古屋鉄道定期外輸送人員の推移



愛知環状鉄道万博八草駅(現在の名称は八草駅)の1日平均乗降者数を見ると、平成16年は2,412人だったのに対し、万博開催期間中は49,292人となった。また、JR名古屋駅から愛知環状鉄道万博八草駅まで直通運転するエキスポシャトルは、1日40往復を運転し、利用者は1日あたり約4.6万人であった。

万博八草駅及び藤が丘駅と万博長久手会場を結ぶ東部丘陵線(リニモ)利用者数も入場者の増加に伴い増加し、万博開催期間中(3月～9月)の利用者は1日あたり約9.8万人であった(図4)。

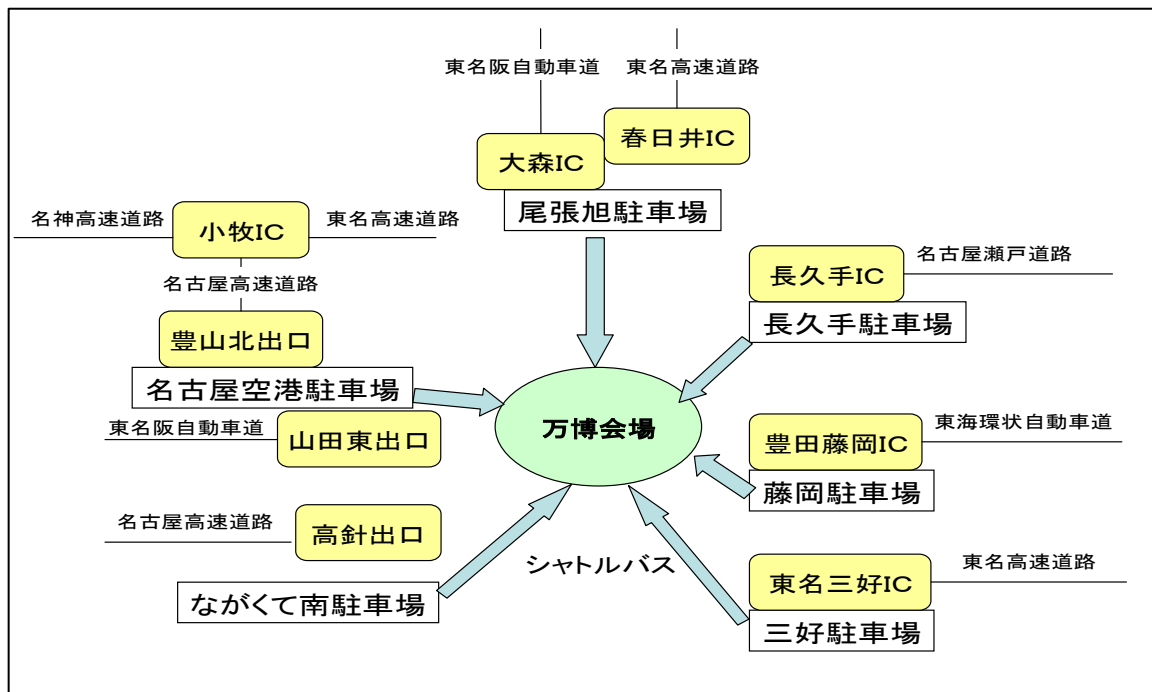
【図4】東部丘陵線(リニモ)利用者数の推移



#### 4. 自動車輸送

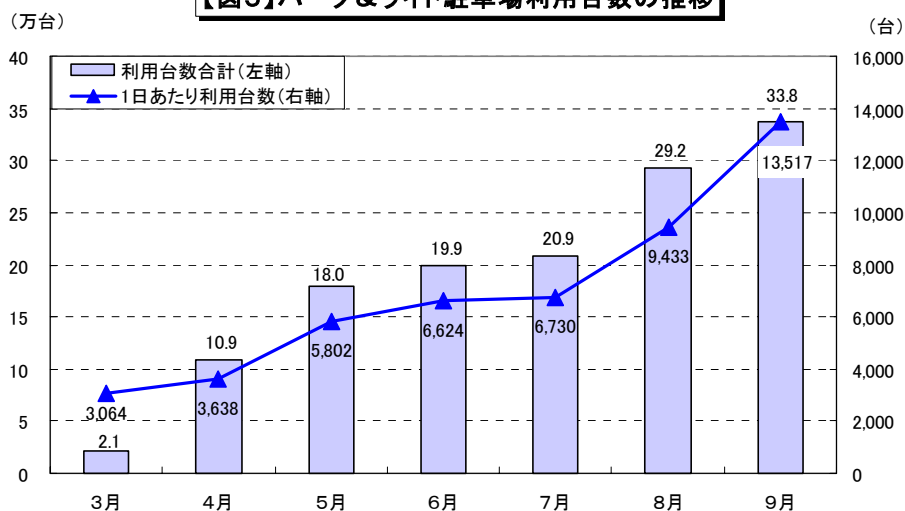
##### ① 駐車場・高速道路等利用台数

<万博会場周辺の駐車場と高速道路等IC・出口>



万博では、専用のパーク&ライド駐車場にマイカーを駐車し、シャトルバスに乗り換えて会場に行くアクセス方法がとられていた。駐車場利用台数の推移を見ると(図5)、万博入場者数の増加に伴い着実に増加しており、万博開催期間中の利用台数は1日あたり約7,300台であった。パーク&ライド駐車場は、会場周辺への一般車の通行を最小限に抑え、混雑緩和に貢献したと推測できる。

【図5】パーク&ライド駐車場利用台数の推移



資料) 博覧会協会資料より国土交通省作成

また、万博開催期間中(3月～9月)の万博会場近辺の主な高速道路のインターチェンジ・出口における1ヶ月平均の通行台数については、前年同期比で東名高速道路春日井ICでは1.1%増(37.8万台)、東名高速道路東名三好ICでは9.3%増(26.3万台)、名神高速道路小牧ICでは3.3%減(73.7万台)、名古屋高速道路豊山北出口では7.6%減(2.9万台)であった。

万博開催前に会場周辺に開通した伊勢湾岸自動車道、東海環状自動車道、名古屋瀬戸道路及び猿投グリーンロードの1日平均交通量は、万博開幕前に比べて増加した(図6)。

**【図6】 新規幹線道路の1日平均交通量の変化**

(単位:百台)

路線名	区間名	開幕前	開催中
伊勢湾岸自動車道	豊田JCT～豊田南	311	368
東海環状自動車道	豊田勘八～豊田藤岡	97	149
東海環状自動車道	せと品野～土岐南多治見	94	141
東海環状自動車道	美濃加茂～富加関	55	70
名古屋瀬戸道路	長久手料金所	61	103
猿投グリーンロード	八草料金所	89	104

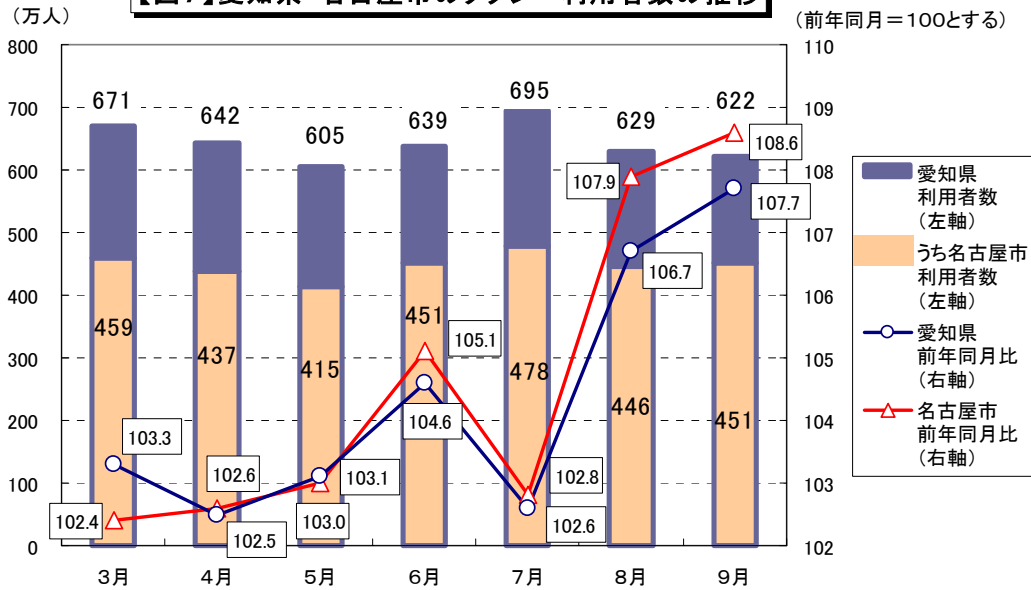
資料)中部地方整備局他資料より国土交通省作成

## ② バス・タクシー

万博開催期間中、名古屋駅、尾張瀬戸駅(名鉄瀬戸線)及び黒笹駅(名鉄豊田線)からのシャトルバス利用者数は約121万人、全国各地からの路線型直行バス利用者数は約45万人であった(博覧会協会資料)。

また、万博期間中(3月～9月)の愛知県及び名古屋市のタクシー利用者数を見ると、愛知県(15年度が前年度比1.1%増、16年度が同0.3%増)、名古屋市(15年度が前年度比1.8%増、16年度が同0.4%増)共に前年同月比でいずれの月も増加し(図7)、全体としては前年同期比で愛知県4.3%増、名古屋市4.6%増となった。

【図7】愛知県・名古屋市のタクシー利用者数の推移

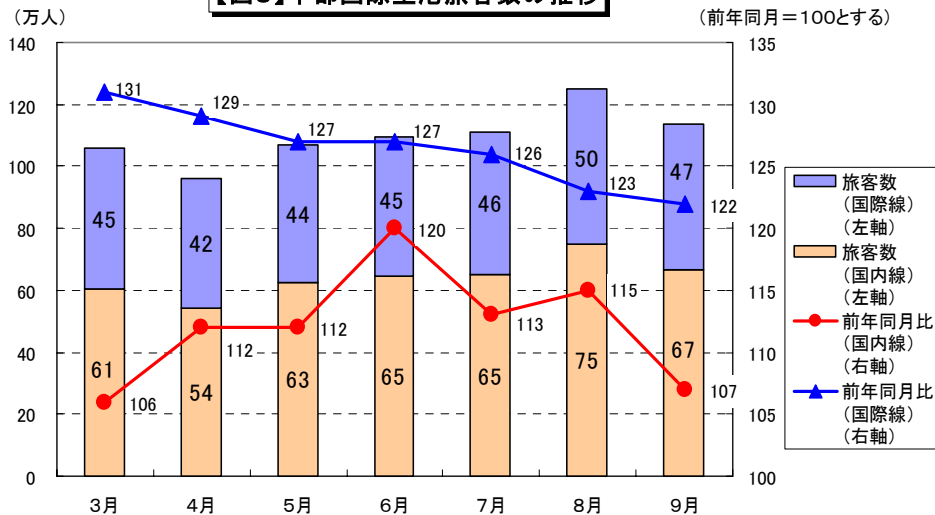


資料)愛知運輸支局資料より国土交通省作成

## 5. 航空輸送

2005年2月に開港した中部国際空港の万博開催期間中(3月~9月)の旅客数を見ると、国内線(名古屋空港実績では15年が前年比1.6%増、16年が同0.6%減)、国際線(名古屋空港実績では15年が前年比20.7%減、16年が同29.5%増)共に名古屋空港との前年同月比でいずれの月も増加し、全体としては前年同期比で国内線12.0%増、国際線26.2%増となった(図8)。

【図8】中部国際空港旅客数の推移



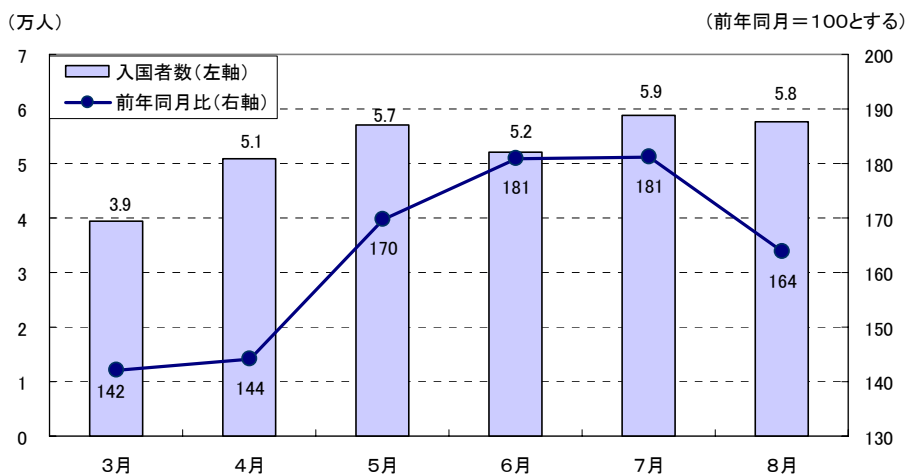
(注)前年同月比は名古屋空港実績値との比較  
資料)中部国際空港株式会社資料より国土交通省作成

## 6. 観光

### ① 外国人正規入国者数

名古屋空港及び中部国際空港外国人正規入国者数を見ると、15年度は前年度比2.3%減、16年度は前年度比24.7%増であったが、万博開催期間中(3月～8月)の中部国際空港外国人正規入国者数は、名古屋空港との前年同月比でいずれの月も大幅に増加しており、全体として前年同期比で63.5%増となった(図9)。ちなみに、同期間中における中部国際空港の国際線発着回数は名古屋空港と比較して約50%増となっている。

【図9】中部国際空港外国人正規入国者数の推移



資料)法務省資料「法務統計月報」より国土交通省作成

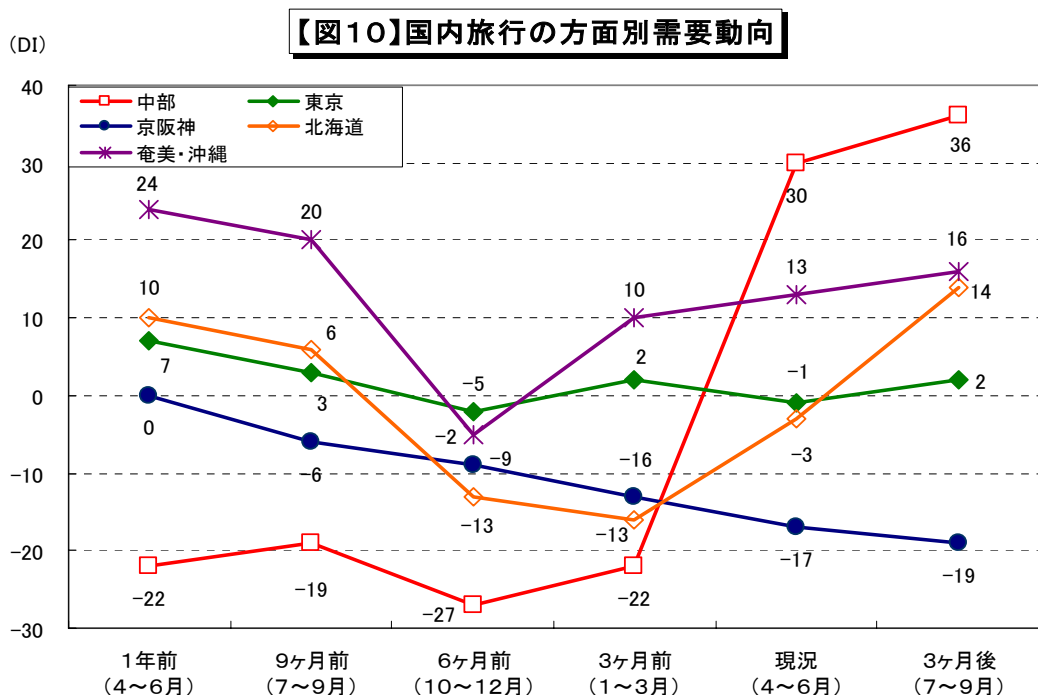
### ② ホテル・旅館

万博開催期間中(3月～9月)、調査対象となった名古屋市内のホテル・旅館は満室の状況であり、宿泊者数は1ヶ月平均14.2万人(前年同期比32%、3.5万人増)であった。また、愛知、岐阜、三重の東海3県における外国人の宿泊者数も1ヶ月平均3.3万人(前年同期比35%、0.9万人増)と前年を大きく上回った(日本ホテル協会中部支部協力に基づく中部運輸局資料)。

### ③ 旅行業

万博期間中(3月～9月)の旅行業主要50社の国内旅行取扱額は、前年同期比2.4%増となった。また、JATA(日本旅行業協会)が2005年5月中旬から下旬に実施した旅行市場動向調査(注)によると、中部方面の国内旅行について、4～6月のDIが1～3月に比べて大幅に上昇しており、万博開催に伴う中部方面への国内旅行需要が拡大していたことが分かる(図10)。

(注) JATA(日本旅行業協会)が旅行市場の動向を捉えるために、全国の旅行会社等会員各社にアンケート調査を行ったもの。「良い」、「普通」、「悪い」、「取り扱っていない」で現況・先行き(3ヵ月後)の評価を求め、全回答数から「取り扱っていない」との回答と無回答を除いたものを母数として算出した、「良い」との回答の割合から「悪い」との回答の割合を引いたDI(=景気動向指数)により結果を発表している。



資料) JATA旅行市場動向調査より国土交通省作成



## 7. まとめ

最後に、万博への来場者をアクセス手段別に見ると(図11)、リニモ、バス等公共交通機関利用の利用率が高いことがわかる。これは公共交通機関利用の事前周知や列車、バスの増発等の効果があったものと考えられる。

【図11】万博来場者のアクセス手段

来場方法		来場者数 (千人)	1日あたり 来場者数 (千人)	割合 (%)
リニモ等	八草方面	リニモ	4,336.5	23.4
		シャトルバス (注1)	735.0	4.0
	藤が丘方面	リニモ	3,997.6	21.6
		臨時バス (注2)	19.5	0.1
駅シャトルバス (注3)		1,209.2	6.6	5.5
路線型直行バス		454.1	2.5	2.1
自家用車	パーク&ライド駐車場 (注4)	4,370.9	23.6	19.8
	障害者専用駐車場 (注5)	70.3	0.4	0.3
団体バス		3,298.3	17.8	15.0
その他(注6)		3,558.1	19.2	16.1
合計		22,049.5	119.2	100.0

リニモ利用計  
37.8%

(注1) 万博八草駅から長久手会場及び瀬戸会場へのシャトルバス

(注2) 藤が丘駅から長久手会場への臨時バス

(注3) 名古屋駅・黒笹駅・尾張瀬戸駅から長久手会場へのシャトルバス

(注4) 各駐車場から長久手会場へはシャトルバス運行

(注5) 長久手会場西ターミナル内専用駐車場

(注6) 徒歩、二輪車(自転車・原付)利用者、タクシー利用者等(民間駐車場利用者、送迎による来場者含む)

資料) 博覧会協会資料より国土交通省作成

以上見てきたように、万博が中部地方を中心とした交通と観光に与えた影響が大きかったことは明らかである。博覧会協会がUFJ総合研究所と共同で試算した万博の経済効果(生産誘発額)は、中部国際空港、東海環状自動車道などの広域基盤整備を含めると約7兆7,000億円であり、そのうち関連交通基盤関連が約5兆6,000億円、来場者の交通・宿泊への消費関連が約8,300億円と非常に大きな規模となっている。今後は万博に合わせて整備された交通基盤の有効活用等ポスト万博の交通・観光政策に取り組んでいくことが重要である。